

収穫間近! 乳熟期からの稲を守るために 今一度防除対策を

シカの水稲被害は、植え付けから始まり、稲が固く青くなってくるといったん収まります。

その後、穂が出ると、乳熟期からはシカだけでなくイノシシも入ってくるようになります。収穫を前に、今一度防護柵の点検を行い、稲を守りましょう。

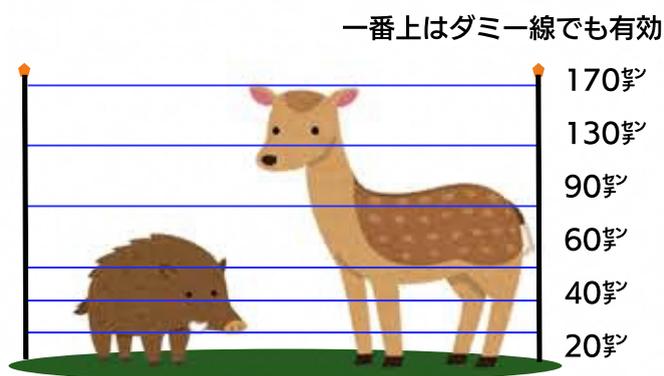
電気柵のチェック事項

電気柵がきちんと効果を発揮するかどうかで特に大事なことは「電圧」と「電線の高さ」です。電圧が表示される電圧計で、通電だけでなく電圧も確認してください。動物に十分な痛みを与え、防除の効果を発揮するには、目安として5000V以上の電圧が必要です。市の実施した防除力向上事業の現地確認では、人が触ってもほぼ何も感じないほど電圧が下がっている柵も見られました。

また、電線は下から20センチ、40センチ、60センチ、90センチ、130センチ程度を目安に、設置してください。1本目が地面から30センチ程度あると、イノシシだけでなくシカも下をくぐる事が可能なほか、途中の電線も間隔が広いとその隙間を飛んでくぐるケースが見られます。



▲数値のわかる電圧計を推奨



▲電気柵の高さの目安

電気柵は「心理柵」

電気柵は、防護柵のなかでも「心理柵」と呼ばれます。これは、感電することで、動物が痛みを覚えて近づかなくなるというものです。

感電させるには、警戒しながら電線を鼻先で触ることが大事です。電圧が低下している状態や、電源を切ったまま電柵を設置していると、動物は「電線に触れても痛くない、怖くない」と学習し、電圧が強くても恐れずに強引に侵入してくることがあります。



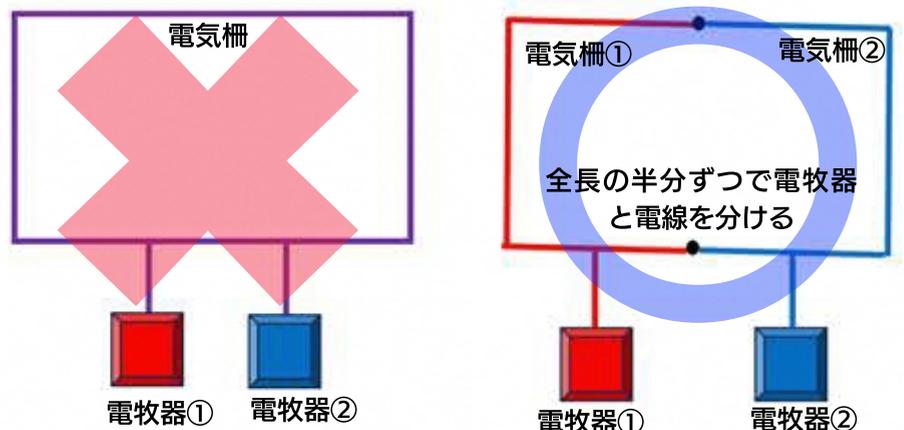
日々、十分な電圧を確保するほか、電源を入れない期間は柵を片付けるか、電線を全て一番上まであげて動物が触れないようにするなどの工夫が有効です。また、潜み場があると比較的明るい時間にも出没するため、終日電源を入れておくほうが効果的です。

なお、シカの飛び越えを防ぐために、1.5m地点などの最上段のみ通電していないダミーの線を張ることは有効です。傾斜地で高さが出せないときや、延長が長く電圧が低下する際にはダミー線の追加を検討してください。

電気柵の適正な使用を

市による現地確認の際、1つの電気柵に複数の電牧器を設置しているものや、電源を入れているが、機器のヒューズが飛んでおり一切電気が流れていないなどの事例が見られました。

電圧を強化するために複数の電牧器を使用する場合には、電気柵を分けて電線の延長を短くするような分割設置にする必要があります。複数の電牧器を1つの電気柵につなげると、機器の故障の原因になるほか、感電した際に、柵から離れることができなくなるなど大変危険なため、必ず点検と電線の張り直しをお願いします。



【発行元・問い合わせ先】

農林課 林業振興・有害鳥獣対策係

TEL:0773-66-1030